

ミニ集会のお知らせ

はやいものでもう 2 月になりましたが、まだまだ寒い日が続いていますね。

次回ミニ集会は平日の夜になりますが、軽食もありますので、皆様是非お気軽にお越しいただけたいと思います。皆様のご参加をお待ちしております。

記

日時：平成 24 年 2 月 24 日（金）18：00～20：00

参加費：500 円(軽食を準備します)

場所：慶應義塾大学信濃町キャンパス孝養舎（看護医療学部）2 階
マルチメディアカンファレンスルーム

〒160-8582 東京都新宿区信濃町 35 慶應義塾大学看護医療学部

<http://www.sc.keio.ac.jp/access.html> （地図をご参照ください）

* ご出席の事前連絡は必要ございません。

連絡・問合せ先：メール：takeday@sfc.keio.ac.jp（武田）TEL 03-5363-2064



当日は 090-2397-9636 にご連絡お願い致します。

2011 年度ミニ集会予定

【昼の部】3 月 11 日（日）13：00～15：00

（場所は慶應義塾大学信濃町キャンパス孝養舎 2 階マルチメディアカンファレンスルームを予定しております。日程等につきましては変更する場合がありますので、ご注意ください）

2012 年 1 月 22 日（日） ♪ 武藤先生講演会報告 ♪

2 月になりましたが、「20 年に一度の最強寒気」といわれていたように、今年に入って寒い日が続いているように思います。春が待ち遠しいですね。

さて、1 月 22 日に開催いたしましたミニ集会では、国立がん研究センター研究所ががん予防研究分野でユニット長をされている武藤倫弘先生が、「がん予防の基礎研究者は一体何をしているのか？～基礎研究からがん医療を支える～」をテーマにご講

演くださいました。お話し下さった内容を以下に示します。

近年の遺伝情報解析技術の進歩について、がん予防の現状として、日本で保険適用となっているがん予防のための予防薬はなく疾患ありきであることから、健康食品の乱売や代替療法の万延が現状です。がん予防の方法であるライフスタイルの改善、早期発見のための検診の実施が必要です。

また「がん予防とはよく聞くものであるが、パツとした予防法がないのは何故か？」という、がん予防研究(基礎)が難しい理由、研究が進んでいない理由としては、①動物にがんを作らなければならないというような、がん細胞が扱いにくいということ、②動物研究では動物のメンテナンス料

がかかること、③お金が集まりにくいので企業が参入しにくいなどがあげられます。では、がん予防研究分野ではなにをしているのか？ということについては、FAP、潰瘍性大腸炎、肥満など、がんになりやすいといわれているハイリスクグループの方のがん化学予防剤の開発、治療を目指しているということでした。

そして、昨年2月にご講演いただきました、京都府立医科大学分子標的癌予防医学消化器研究室、石川消化器内科の石川秀樹先生が行っている、アスピリン腸溶剤を用いた臨床試験の J-FAPP Study (低用量のアスピリンを6カ月内服し直腸腫瘍の数や直径について評価した研究) では、2mm以下のポリープは更に小さくなることがわかり、手術の時期を遅らせるなどの研究を行っているということでした。

また、すでに実用化されている予防薬として、Sulindac (スリンダック)、selecoxib (セレコキシブ)、EPA があるが、selecoxib については予防薬として用いられながらも心臓血管系の副作用の出現が認められたので、今後予防薬としての使用継続の判断が難しく、そのため対象を成人から子供へ変えて現在研究が行われているとのことでした。

講演後は、参加者の皆様から赤身の肉のリスクについて、中間的腫瘍マーカーについて、お腹の運動についてなど、活発に質問や意見交換が行われていました。なかでも、アスピリンを用いた研究の対象者になれるのであれば対象になりたいというご希望もありましたので、この件につきましては、今後患者会やニュースレターを通じてお知らせをしていくなど告知の方法を検討することになりました。

※FAP 治療実験に役立つがん抑制遺伝子 (APC) が欠損しているマウス (Min マウス) を用いた世界の研究が掲載された HP の URL

<http://www.inra.fr/reseau-nacre/sci-memb/orpet/indexan.html>

※FAP 患者を対象とした世界の臨床試験が掲載された HP の URL

<http://www.cancer.gov/cancertopics/types/colon-and-rectal>

～大腸癌研究会報告～ 岩間先生

1月20日に大腸がん研究会 (外科、内科、放射線科の医師などが参加) が開催され、ご出席されました岩間先生からご報告をいただきましたので、簡単に内容を掲載いたします。

大腸がん研究会の部門に家族性大腸がん委員会があり、2年程検討していた遺伝性大腸がん診療ガイドラインの案が出来上がり、今回大腸がん研究会の公聴会に出されました。

下記 URL からご参照ください。

遺伝性大腸癌診療ガイドライン (案)

[http://www.jscer.jp/pdf/201201_guideline.pdf#search='大腸がん研究会 家族性大腸癌診療ガイドライン'](http://www.jscer.jp/pdf/201201_guideline.pdf#search='大腸がん研究会%20家族性大腸癌診療ガイドライン') (2012年2月3日現在)

このガイドラインは現在評価されている段階で、その結果次第で今後出版予定 (7月頃) です。

現在、FAP 特定疾患認定に向けて石川先生、会長の小林さんが厚生労働省に何度も陳情や働きかけをしてくださっておりますが、なかなか実際の行動に移してもらえないのが現状です。そこで今回、大腸がん研究会から「特定疾患治療研究事業」に家族性大腸腺腫症を追加することの要望書を厚生労働省に研究会からご提出頂くことを、家族性大腸癌委員会から会長に上申くださることが決まったということのご報告いただきました。

今後の進展が期待されます。

茶話会報告

今回は20名の方が出席され、うち2名の方が初めてご参加くださり、ご紹介をいただきました。手術をされたのは20年以上前とのことでしたが、インターネットで患者会のことを知り、思いきってご参加くださったとのことでした。今までの思いや悩みなどをお話くださり、参加者全員が深く共感しながら聞かせていただきました。

その他、参加者皆さんの自己紹介のなかで、外出先でのお手洗いのこと、風邪をひいた時に近くの病院にかかるだけで自分の病気のことを一から説明しなければならないこと、点滴の効果など、様々な質問や意見交換が行われていました。

特に今回、今後この会に期待することとしてご意見をいただきましたので、掲載させていただきます。

- ・子供は病気のことを知らないし、子供は今後いろいろ自分で自分の事を調べてしていかなければならない。その際に、子供たちが同世代の人たちと集まって、いろいろ話ができる環境を作ることができたらいいのではないかと考えていて、それが一番期待することです。
- ・この会に参加するようになり、本音を話せるようになってきた。BBQでお会いした方が夫と同世代であったことや、子供の十年後も想像することができたので、とても希望を持つことができた。

などのご意見をいただきました。

〈文責：上野いづみ〉

会費納入について

会費の納入方法は銀行の振込です。必ず会員の方のお名前を明記してください。

「ハーモニー・ライフ」では、随時会員の入会を受け付けております。入会申込書にご記入いただき事務局にお送り下さい。同時に年会費（2000円）を振り込んで下さい。会費の納入が確認でき次第、会員として登録させていただきます。入会を希望される方がいらっしゃれば、是非ご紹介下さい。ご不明な点については、事務局に文書でお問い合わせ下さい。

〈年会費の振込先〉

りそな銀行 横浜支店 普通1594211
名義：ハーモニーライフ タケダユウコ

編集後記：今回、上野が編集を担当させていただきました。会に期待することとしてご意見をいただきましたように、今後、幅広い年齢層の方に茶話会にご参加いただき交流を深めていけたらと思っております。皆様のご参加、ご協力の程、どうぞ宜しくお願い致します。

上野いづみ

記録・広報係：武田祐子
慶應義塾大学看護医療学部

E-mail: takeday@sfc.keio.ac.jp

